

さっぽろ雪まつり - 大雪像の制作方法

さっぽろ雪まつりの中で客をひきつける主要なものとしては、5つの巨大な雪像があります。デザインは毎年変わり、建物を忠実に再現したものや、大衆文化のキャラクターを表現したものであったりします。ひとつが4~5階建ての建物の高さになるものもあり、膨大な量の雪を必要とします。これらのうち2つは、陸上自衛隊員たちの作品です。残る3つは、自衛隊を退役した人々に率いられた市民グループが作っています。

雪は、雪像が作られる大通公園内の現場までトラックで運び込まれます。多くの雪像では、まず枠組みを作って足場を組み、クレーンを使って枠の中へ雪を入れていきます。そして雪を下へ押し込み、密度のある固い塊にします。その後に枠を外し、像を彫っていきます。デザインによっては、型に雪を密に詰め込んで手作りした、雪のレンガが使われることもあります。最終段階で照明が加えられ、多くの巨大な雪像が、動画を投影する画面の役を果たします。

雪まつりには通常、最大で3万トンの雪が必要になり、そのうち半分の雪が大雪像に使われます。雪を運んで雪像を作るのに、毎年1万人もの人々が関わっています。天気は作業に大きな影響を及ぼします。雪まつりの開催日は先に決まるため、それに従って雪を運び入れる日も決まっています。雨が降ったり、季節外れの暖かさになったりして雪像を修復しなければならないときには、制作チームは夜まで残って作業をします。